



防災を「忘災」にしない!

国危機管理課 ☎(235)4790

東日本大震災の発生からおよそ3年が経過しました。災害は、いつ発生するか分からないもの。海老名が被災地になることも、当然想定しておかなくてはなりません。震災後、私たちの防災意識は高まりました。しかし、被災地から離れた場所で暮らす私たちにとって、震災や復興がいつの間にか「他人事」になってしまっていないでしょうか。

2月には、市内も45年振りとなる記録的な大雪に見舞われまし。地震や風水害に関する被害に重点を置いて対策を行ってきた市の防災対策ですが、今回の雪害は今後の対策課題の一つとなりました。また同時に、各家庭でも食料の備蓄や、雪かき道具などの備えについて、改めて考える機会にもなったのではないのでしょうか。

自然災害に対して、私たちができることは減災のための備えだけです。備えを行う第一歩は、過去の教訓を活かし、忘れないこと。被災を免れることはできませんが、備えがあれば、被害を軽くすることはできます。例えば、今回の大雪の場合でも、立ち往生した車が道をふさいでしまったことで、市内でも渋滞などが発生しました。「自分は大丈夫」と思わず、不要不急の外出や車の使用を控えるなど、日頃から各自が自分のできることを、しておくべきことをイメージし、最悪の事態を想定した準備をしておくことが重要です。

大規模災害によるライフラインの寸断や市民生活のまひが起った場合、行政などからの支援が届き始めるまでにおよそ3日間かかるといわれています。最も大切な



▶2月15日、積雪のため通行止めとなった国分地区の県道



▲東日本大震災当日、23時過ぎ、海老名駅の滞留者の様子



▲東日本大震災4日後の計画停電中、警察官が交通整理を実施

その時どうする??

「海老名市地域防災計画」に掲載されている、市内で被害発生が想定される地震は8つあります。同計画の中で想定されている最大震度は5強から7。今回は、海老名市内で震度6強の地震が発生した時、どのような対応をとるべきかシミュレーションしました。

地震発生!大きく揺れ始める

【考える】
家屋や家具などの下敷きにならない場所を考え、速やかに移動します。大きな揺れの最中にできることはありません。身を守ることを最優先に考えましょう。日頃から、家具を固



揺れが収まったら

【動く】
火元の確認をし、ガスの元栓を閉めましょう。ドアや窓を開け、逃げ道を確認しましょう。

【知る】
えびなメールサービスや防災行政無線、tvkのデータ放送などで状況を確認し、情報収集をしましょう。無線が聞こえにくい場合には、音声ガイド(☎0180・994・050)もあります。



家具棚や食器棚の転倒防止策の一例

定するなどの対策をしておきましょう。

なお、地震を感じる前に、緊急地震速報が発表される場合もあります。このうち、震度6弱以上の揺れが想定されるものは「特別警報」に位置づけられています。

ことは、命を落とさないこと。自分の身は自分で守る。「自助」、地域で助けあう「共助」、行政などが備える「公助」の3つが、災害に備えるキーワードです。自分自身と愛する家族を守るため、「備えておけば良かった」という後悔だけはしないよう、再度、家庭や職場などで備えの確認をお願いします。

【考える】

避難が必要かどうか判断しましょう。在宅で物資の配給を受ける場合、避難所での登録が必要です。必ず一度、避難所へ行きましょう。全戸配布している防災マップ(表紙写真)や、防災アプリで近くの避難所予定施設などが確認できます。防災アプリ(8ページ参照)は、スマートフォンにインストールしておくことで確認ができるので便利です。

避難所へ避難するとき

【考える】

家族や近所の方に安否や避難先を伝えたいけれど、電話がつながりにくい。そんな時は、貼り紙や災害用伝言ダイヤルが有効。ガムテープや油性マジックを避難備蓄品に加えると便利です。



伝言メモ代わりにもなります

【動く】

非常持ち出し品や食料などを確

認し、速やかに歩いて避難しましょう。避難時には電気のブレーカーを切りましょう。隣近所への声かけなどは、お互いに行うと有効です。

避難所へ行く際は、なるべく広い道を選びましょう。幅の狭い道、ブロック塀が続くような箇所は、家屋の倒壊などにより通行できない可能性があります。なお、ブロック塀の維持管理は所有者が行うものです。倒壊の危険度などについて日頃から確認をしておきましょう。一般社団法人全国建築コンクリートブロック工業会のホームページには、ブロック塀の診断カルテが掲載されていますので参考にしてください。

避難所では

【考える・動く】

避難者はお客様ではありません。大規模災害時には、行政だけの対応では限界があります。避難所では、避難者同士が自発的に行動し、共に助けあうことが不可欠になります。地域の防災訓練などに積極的に参加し、「いざ」という時のために備えておきましょう。

自助